

湯田小からの便利

手づくり

屋内ブランコに歓声

11月15日、湯田小フェスタで6年生は「未来への記憶展」を開きました。子どもたちの「自然の物で遊具が作れたらなあ…」という希望をかなえるために、地域づくり協議会の北川義象さん、近藤秀之さんが、6mもの竹で大きなブランコを作ってくださいました。当日、ブランコの前には長い列ができ、ゆったりとゆれるブランコの気持ちよさを子どもたちのみならず、保護者の方々も堪能しておられました。本当にありがとうございました。

(六年担任 野村)



ふくらの森で学ぶ

今秋、ふくらの森を管理されている浅井湯田地域づくり協議会の方々に、現地でお話を聞いて学習をさせていただきました。

ふくらの森は北国脇往還に面し、江戸時代、大名行列がこの森を通り過ぎたら、国元に伝える飛脚が走ったというほど広大で鬱蒼とした

蒼とした森だったという言い伝えがあります



た。また地域のの人たちにとっては燃料としての木々を採取したり、田畑の肥料として落ち葉を採取したりと生活と深い関わりを持っていました。しかし、生活様式が大きく変わった今で

はほとんど利用しなくなり、戦後の政策で10haあまりになってしまったという変遷など、ふくらの森の歴史をその身で体験されて



きた方のお話にも、子どもたちは興味津々でした。また、食物連鎖の中の「森」の役割についても

お話を聞くことができました。実際にふくらの森へ出かけて、落ち葉で作られた地面を歩き、足の裏に伝わる感覚を体験しました。また手の入らなくなった荒れた状態の森を美しく再生し、森の資源を活用しようとして活動されているお話を聞き、森で落ち葉の堆肥作りや椎茸栽培などを観察しました。そして、森の木で作った遊具で遊んだり、どんぐりやキノコ、落ち葉や木の実を採取して観察し、森の生き物や植物にふれ合い、自然体験を行うことができました。森の空気に

触れ、植物に触り、生き物の声を聴き、森の遊具で遊び、森の自然に親しみを感じながら活動を行うことができました。事前に落ち



3年生が作ったふくらの森案内書

葉の重なった地面は2m以上の層になっていることを聞いていた子どもたちは、予想よりもあまりにも柔らかい地面の感触に感動していました。生き生きと楽しみながら森の自然と触れ合うことで、身近な自然を大切にしようという気持ちも育てることができました。また、地域づくり協議会の方々のお話や調べ学習により、地域の自然と人々の暮らしについて学びを深めることができました。地域づくり協議会の方々には、たくさんのご支援をいただきありがとうございます。

(3年主任 南部)